

## SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

南砺市SDGs未来都市計画「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

## (2) 2030年のあるべき姿

「自然と共生し、地域資源を最大限に活用した様々な小さな循環が相互に連動し、支え合いながら自立するコミュニティモデル」の確立により、これまで取組んできたエコビレッジ構想を地域内で横展開・深化させ、世界にも発信する「南砺版エコビレッジ」（世界につながる一流の田舎）の実現を目指す。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	有機農業者数【2.4】	2018年 15人	2021年 24人	2030年 30人	60.0%
2	若者、女性の就業率【5.5】	2018年 74.4%	2021年 77.5%	2030年 85%	29.2%
3	南砺ブランド商品年間販売額【8.2】	2018年 17.6億円	2021年 17億円	2030年 30億円	-4.8%
4	年間新規起業（家）数【8.3】	2018年 20.0件	2021年 10件	2030年 30件	-100.0%
5	SDGsワークショップ開催地域数【4.7】	2018年 0.0地域	2021年 24地域	2030年 31地域	77.4%
6	自治会町内会に加入している世帯の割合*データなし【11.3】	2018年 94.2%	2021年 -%	2030年 97%	-
7	協働のまちづくりに取り組んでいる市民の割合【17.17】	2018年 42.5%	2021年 49.4%	2030年 70%	25.1%
8	再生可能エネルギー導入容量（熱）【7.2】	2018年 16,500 GJ	2021年 22,843 GJ	2030年 42,000 GJ	24.9%
9	木質バイオマスによる年間CO <sub>2</sub> 削減量【9.4】	2018年 1,035 CO <sub>2</sub> -t	2021年 1,301 CO <sub>2</sub> -t	2030年 2,900 CO <sub>2</sub> -t	14.3%
10	一人一日あたりのごみ排出量（家庭系ごみ）【12.5】	2018年 409 g	2021年 459 g	2030年 390 g	-263.2%
11	地域美化活動を行っている市民の数【12.5】	2018年 4,700人	2021年 2,878人	2030年 6,000人	-140.2%
12	木質ペレット工場への年間木材搬入量【15.2】	2018年 185 t	2021年 3,060 t	2030年 4,300 t	69.9%
13	木質ペレット利用量【15.2】	2018年 1,063 t	2021年 1,015 t	2030年 2,000 t	-5.1%
14	ペレットストーブ等年間設置補助件数【15.2】	2018年 15件	2021年 12件	2030年 30件	-20.0%
15	林業担い手【15.2】	2018年 165人	2021年 140人	2030年 250人	-29.4%
16	素材生産量（針葉樹）【15.2】	2018年 13,515 m <sup>3</sup>	2021年 16,088 m <sup>3</sup>	2030年 20,000 m <sup>3</sup>	39.7%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

経済面においては、指標の推移は概ね順調であり、新規起業数（指標No.4）に関しては、起業数自体は停滞しているが、ウィズコロナにおける新たな働き方などを検討する起業家の相談は増加傾向である。引き続き補助制度等により新規起業を支援していき、新しい価値を生むことができる地域の実現を目指す。

社会面においては、小規模多機能自治による市民自らの課題解決に取組が活性化しており、SDGsへの関心も高まっている。SDGsの普及啓発として、各地域や小中高校において出前講座を実施し、自分が住む地域を学び、地域課題を考える機会とした。引き続きSDGs視点で地域の自然、文化、歴史、人などの地域の魅力と課題、具体的な施策を市民へ伝え、実践活動へつなげていく。

環境面においては、豊富な森林資源を活用した循環モデルの構築を進めているが、指標としては横ばいもしくは後退傾向。出前講座の実施やステークホルダーと連携した啓発により、地域内循環モデルを反映した新たなライフスタイルをより積極的に提案していき、ペレット等木質バイオマスエネルギーの利活用（指標No.13、14）を推進する。また、林業担い手（指標No.15）に関して、担い手育成講座を実施しているところであるが、今後は林業事業者との意見交換を行い、より課題に見合った講座内容の充実を図り、森林・林業の魅力を発信することにより、担い手の育成に繋げる。